

派 遣 報 告 書（報告者：樋口俊司）

大会名	第 55 回全九州高等学校バスケットボール春季選手権大会
開催地	長崎県大村市 シーハット大村
日 時	令和 7 年 2 月 15 日（土）～ 16 日（日）
担当ゲーム 1	（男子） 宮崎工業（宮崎県） vs 佐賀東（佐賀県）
クルー	CC:松永雄平（長崎県） U1:樋口俊司（大分県） U2:松田大輝（長崎県）
担当ゲーム 2	（女子） 東海大福岡（福岡県） vs 佐賀北（佐賀県）
クルー	CC: 樋口俊司（大分県） U1: 松田大輝（長崎県） U2:四本栄子（長崎県）
担当ゲーム 3	（男子） 九州学院（熊本県） vs 柳ヶ浦（大分県）
クルー	CC:樋口俊司（大分） U1:松永雄平（長崎県） U2:林剛太（熊本県）
（担当ゲーム） Pre-Game Conference	
○ Mech について確認（特に EarlyRotation ） ○ Primary と Secondary の考えから Pacient,Cadence について ○ UF4 について ○ 各チームのプレイヤの整理	
（担当ゲーム） Post-Game Conference	
○ Taunting に対する両チームへの TF 適用についての整理、および CrewWork について discussion ○ UF 適用ケースについて、クライテリアの確認 ○ ベンチへのコミュニケーションについて discussion（Short and Clear を目指すための言葉のチョイス） ○ EarlyRotation の LTT における役割分担と、その際の各ポジションレフリーのメンタル考えを整理	
今大会に参加しての感想など レベルの高い九州ブロックということもあり、地元テレビ局やフジテレビの取材も入るような雰囲気、特に WinterCup 優勝の福大大濠や福岡第一が絡む試合は観客も多く、関東の強豪大学の HCC も視察に来るなど、人々の関心の高さを感じるものであった。そのような中で一番心残りなのが、スローインをするプレイヤーが 1m 以上動いてスローインする行為に対し、笛を鳴らしゲームを止め注意して終わらせた行為がレフリーとして厳格さに欠けていたと感じた。以前なら教育的配慮とも取れる行為であったが、トップリーグが浸透している中ではルールを確実に正確に適用することを周囲は期待しているのだと反省しているところである。今後もルールの適用に追求できるように研鑽を積んでいきたい。 LTT の Mech については、トップリーグ担当のレフリーから降りてくる情報が主であり、マニュアルとして整備はされていないため、PGC での解決が求められるため、3 人のレフリーの動きに加え、センターラインとコンタクトの判定について役割分担を明確化することや、想定されるメンタルなども言葉にすることは、実際のゲームで助けられることやよりよいクルーワークにもつながると感じたため、今後も情報をとりいれつつ、良い判定につなげれる Mech の研究も図っていききたいと感じた。 TO は地元高校生が行ってくれたが、大きなトラブルなく運営できていたことに驚きつつも、印象的なのは後ろにたつ責任者の先生方が、しっかりフォローをし、ゲームに参加していっちゃった姿であった。長崎県 U18 部会が一丸となって大会運営を行っていることに、本県も持ち帰ってもらえていることを期待したいと感じた。 最後に、ホスト県である長崎県バスケットボール協会の皆様には期間中、様々な配慮をいただき、謝意を述べるとともに、派遣にあたり本県バスケットボール協会の皆様にはご理解とご協力を賜り、心からお礼を申し上げます。今回の経験を県内へ還元できるように研鑽してまいります。	